

必ず表紙を付ける

タイトル

(レポートの内容を表す表題)

提出日

学生番号 氏名

提出回

(例: 提出回数 6 回より 1 回目 or 1/6)

1. はじめに

レポートには何が書かれているか（内容）をまずは示す。

2. 指定条件に基づくコンクリートの配合設計

2.1 配合条件

下の表により、各材料（水、セメント、細骨材、粗骨材）の量の計算をする。

表-1 配合設計における指定条件

単位水量 W (kg/m ³)	水セメント比 W/C(%)	細骨材率 s/a(%)	空気量 (%)
174	46	48	2.0

表-1 本実験に用いる使用材料の性質

セメント	種類： ， 密度 g/cm ³
粗骨材	産地： ， 最大寸法 ， 密度 g/cm ³ , 吸水率 %
細骨材	産地： ， 密度 g/cm ³ , 吸水率 % , 粗粒率

2.2 コンクリートの配合設計

(1) セメント量の計算

単位水量 W と水セメント比 W/C の関係によりセメント量を求める。

$$W/C=46 \text{ より } 0.46$$

$$174(\text{kg/m}^3)/C=0.46$$

$$\text{セメント } C=174(\text{kg/m}^3)/0.46$$

$$=378.26(\text{kg})$$

(2) 全骨材容積の計算

単位水量，セメント量，空気量を容積換算し，残りの容積を求める。

1 m³は1000 lなので，使用材料の密度を用いて，容積に換算し，
1000 l から差し引く。

(3) 細骨材量 S の計算

計算過程と計算結果を示す。

(4) 粗骨材量 G の計算

- 計算過程と計算結果を示す。
(5) 示方配合表を作成する。

表-? 本実験の配合

表にまとめる

- (6) バッチ配合 (15リットル) への換算

計算過程と計算結果を示す。

表-? 本実験の現場バッチ配合

表にまとめる

3. 試し練りおよびスランプ試験結果

3.1 試し練りの手順

3.2 スランプ試験結果

測定番号	1	2	3
スランプ (cm)	3.0	2.0	1.0
A 突き棒でコンクリートの側面をたたいた前の状態			
B 突き棒でコンクリートの側面をたたいたときの状態			

図-? スランプ試験結果

4. 考察

今回の結果について、講義や実験で受けた説明や想定等を踏まえ、どうであったかを説明し、次回に向けてどう考えればよいかを述べる。

5. 授業の感想とオプション

○注意事項：図や表の見出しの付け方

図：図-1 見出し と表し、図の下に付ける。

表：表-1 見出し と表し、表の上に付ける。

表-1 配合表



図-1 圧縮強度試験結果